

## 研修資料②

### 作成した「ニーズ整理票」を5分でレポートする(1)

現在、担当している事例や担当者を指導している事例などを、下記の点に留意してレポートしてみてください。持ち時間は5分です。

#### 1. 本人の希望を把握する

本人の希望や解決したい問題を必ず把握しましょう。子どものケースでは、親の意向も確認しましょう。ケースによっては、述べていることの意味を考える必要もあるでしょう。「仕事がしたい」という希望は、「自由に使えるお金がほしい」かもしれませんし、「人の役に立ちたい」「家族仲が悪いので、ずっと家にいたくない」かもしれません。

#### 2. 三つの作業過程(インテイク、アセスメント、プランニング)を意識する

収集・整理した情報を評価し、何らかの仮説や理解(アセスメント)にまとめ、そのアセスメントから対応・方針を検討します。レポートの際には、これまでの支援経過や細かな情報、来談者が語った内容などに時間をかけ過ぎず、あなた自身のアセスメント(理解・解釈・仮説)を中心に述べるようにしてください。

#### 3. アセスメント(理解・解釈・仮説)を述べる

アセスメントとは、『本人の夢、希望の実現や課題の解決に向け、必要な根拠(情報)をおさえ(収集し)、整理・分析すること』です。そのためには、一つ一つの情報を自分なりに解釈し、それらを組み立て、生じている問題の成り立ち mechanism を構成し(まとめ上げ)、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすることが必要です。

アセスメントにあたっては、①生来的な気質や発達特性、疾患などの**生物的要因(からだ)**、②不安、葛藤、希望、自己感、認知、内省性、感情統制、防衛機制などの**心理的要因(こころ)**、③対人関係の特徴や、本人が家族や学校・職場にどのように適応しようとしているか、④家族、職場、学校など、その人をとりまく環境(③と④を併せて「**社会的要因**」と考えます)に注目してください。また、3つの要因の関連性にも留意し、生じている問題や「その人」に関する『**生物ー心理ー社会的な包括的アセスメント**』と、今後の支援にあたって核心になると思うことをレポートの冒頭で簡潔に述べてください。たとえば、「頭痛や腹痛のために不登校になっている中学生です。軽い知的な遅れがありそうですが、周囲の認識が乏しいことが中心的な問題だと思います。家族に理解

を求めて発達について査定したうえで、環境を調えることが中心的な課題になりそうな事例です。」といった感じです。

こうしたレポートによって、①軽度知的障害ないしは境界知能という生物的要因、②周囲の認識不足によって能力以上のことを期待されている、適切な支援が提供されていないといった社会的要因、③その狭間で本人の不応感が高まり、抑うつや身体症状が生じているといった心理的要因が絡んでいること、また、それら3つの要因が関連し合っている生じている不登校ケースであることが聴き手に伝わります。

こうしたアセスメントに基づいて支援課題をリストアップします。支援課題がいくつあるかと思っいるかを述べてください。どの課題を優先させるかについても考えてみてください。緊急性の高い課題があれば、それを優先します。すぐにやるべきことは優先順位の上位、じっくり取り組むべきことは下の方でよいかもしれません。

これまでの支援経過やケースの状況を説明しただけで支援課題や支援方針に飛んでしまうレポートは不合格です。重要なのは「その状況や問題が、なぜ、如何にして生じているか」です。

#### 4. 対応・方針

アセスメントに基づいて支援方針を述べてください。上記の事例であれば、①生物的要因(知的能力)に注目した学習指導や生活指導など、②個別面接や生活場面において自己評価の回復や不安の軽減を図るような心理的アプローチ、③家族にはたらしかけて本人が困っている状況を理解してもらい、学校にクラス運営や個別的支援について検討してもらいなどの環境調整(社会的アプローチ)、そして、④それらのいくつかを並行させた複合的なアプローチ、が考えられます。

アセスメントの後半でリストアップした個々の支援課題に対応する支援計画をできるだけ具体的に(誰が、どんな方法で、いつまでに、どのくらいの期間)述べてください。支援計画の策定にあたっては実現可能性を重視してください。実現可能性を高めるためには、本人・家族のニーズに沿った計画立案を心がけた方がよいでしょう。障害者や高齢者の事例では、その人の生活観や人生観(どんな人生・生活を送りたいか)、趣味や好みを踏まえた支援方針を工夫してみてください。現時点でアセスメントに至るまでの情報が不足している場合には、今後、どのような情報を、どのような方法で集めるかを述べてください。ここまでで5分です。

「生じている問題」に対する方針を考えたいときには、以上のポイントを踏まえてレポートしてください。「その人」をアセスメントするときには、研修資料③を参照してください。

なお、ひきこもりケースのように、本人には会えておらず、家族だけが来談しているようなケースは、このアセスメント方法には不向きですので、本人に会えているケースを取り上げてください。